

I-1. プロローグ／ 「少女の一生」と女学生文化

冒頭に御紹介するのは現在の感覚からするといささか不思議な「少女すごろく」。当時一般に考えられていた少女の遊びや徳目、人生航路をすごろくにしたものです。20世紀初頭、女子高等教育の進展とともにあらわれた（子供でも妻でも母でもない）少女という社会階層は大いに世間の注目を集めました。

しかし、美術の歴史を振り返ってみれば、江戸時代以前の近世美術にも禿かむろや小町娘といった魅力的な少女たちの存在が垣間見えます。また、大正から昭和にかけての女学生文化は、女学校での交遊や少女雑誌読者欄を通じての文通といった横のつながりが大きな原動力となっていました。その共同体意識を支えた便箋表紙や封筒などの通信インフラ（といってもいいでしょう）、共同体のアイコン（聖画）であったとさえいえる雑誌口絵には今見ても色あせない独特の魅力があります。

まずはここから少女美術の探訪を始めましょう。

美少女の
美術史

～憧れと幻想に彩られた私たちの偶像～

美少女な
わんない
じやない
わんない